

## 久留米大学病院・一般社団法人 久留米三井薬剤師会

# プレアボイド活動継続が 医療機関と薬局の連携強化につながる

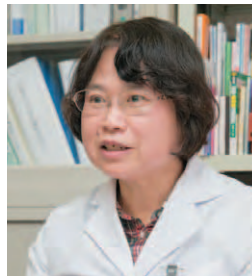
公益社団法人福岡県薬剤師会のモデル事業で知った「プレアボイド活動」を事業終了後も継続している一般社団法人 久留米三井薬剤師会。プレアボイドの検証対象であるお薬手帳を連絡ツールとして医療機関やその他の医療・介護スタッフとの情報共有が進んでいる。

一般社団法人久留米三井薬剤師会（久留米市、小郡市、三井郡大刀洗町）の薬剤師によるプレアボイド活動の歴史は長い。2009年度に公益社団法人福岡県薬剤師会のモデル事業「医療安全のための薬局薬剤師と病院薬剤師の連携事業」として、両薬剤師がお薬手帳を通して、患者さんの薬物療法に関する情報の共有と円滑な連携関係構築を目指してきた。

同事業の終了後、久留米三井薬剤師会医療連携委員会は、プレアボイド報告事例の収集は患者さんの薬学的管理のための地域連携を進めるに当たり有用であるという認識に至った。そこで同薬剤師会の会員薬局に対してプレアボイド報告事例収集の継続依頼を行い、現在も続けられている。

### ■ 病院薬剤師も評価する 薬局薬剤師の取り組み

同地域の基幹病院である久留米大学病院薬剤部でもプレアボイド報告は病棟薬剤業務や医療安全の質の向上に資するとし、積極的に報告、共有するよう努めている。2018年度薬剤部業務改善目標の1つに「プレアボイド報告件数増加」を掲げ、月に50件ほどだった報告を100件まで高める



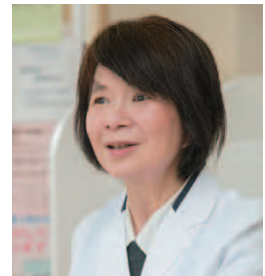
一般社団法人  
久留米三井薬剤師会 理事  
久留米大学病院薬剤部 副部長  
三輪 涼子 氏

よう取り組んでいる。

また、月に1度の頻度で薬剤部のミーティングと、医療安全管理対策委員会に対して、一般社団法人日本病院薬剤師会に報告した優良事例を示し、共有を図っている。

上記のように院内でのプレアボイド活動を進めるほか、久留米三井薬剤師会の理事である同院薬剤部副部長の三輪涼子氏は、同薬剤師会のプレアボイド活動に対して、次のようにエールを送る。「薬剤師が患者さんに寄り添い、副作用の回避や薬物療法の効果を向上させるための処方支援を行うことは、薬剤師の職能として社会的に求められていることに相違ありません。

さらに「長期間処方されている薬剤でも患者さんの病態の変化によって



一般社団法人  
久留米三井薬剤師会 副会長  
ひだまり薬局  
杉本 奈緒美 氏

薬物体内動態が変わったり、コンプライアンスが改善することで副作用が発現することがあります。調剤時のみならず服用期間を通じて薬学的管理を担当する薬局薬剤師にとって、プレアボイド報告はスキルアップの一助であり重要な職能と言えるでしょう」。

### ■ “ゼロ”から始まった プレアボイド報告の収集

久留米三井薬剤師会のプレアボイド活動を担当する同薬剤師会副会長の杉本奈緒美氏は、モデル事業の開始時を振り返り、「まず『プレアボイドとは何ぞや?』から始まりました。既に病院薬剤師のプレアボイド活動は進展していましたが、薬局薬剤師は全く分かっていませんでした」と話す。

初期段階は、薬局薬剤師がお薬手

図1 プレアボイド報告を掲載する久留米三井薬剤師会のホームページ

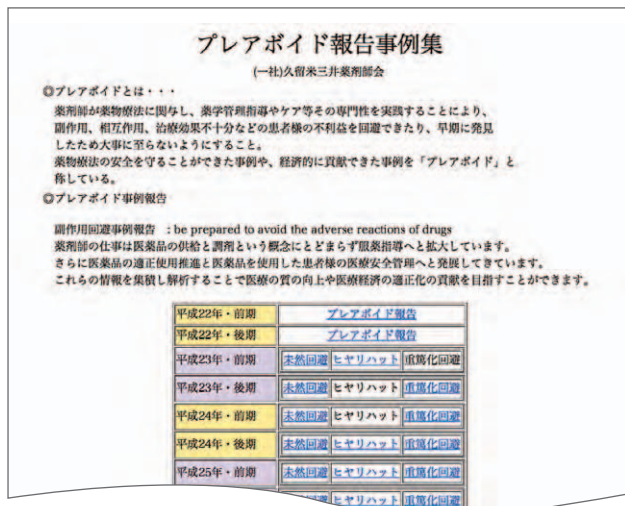
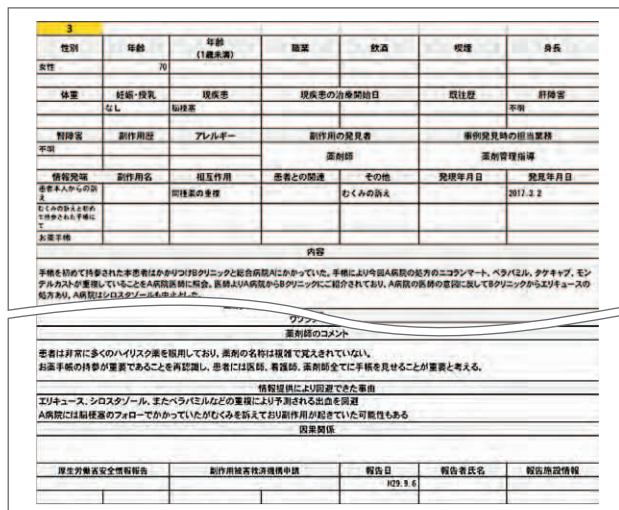


図2 表計算ソフトで閲覧できる久留米三井薬剤師会のプレアボイド報告



帳を確認して、重複投与などを疑義照会によって解消した事例を収集していった。この活動を通して、プレアボイドとその意義を理解したことにより、「薬局薬剤師が行うべき職能であり、医薬連携の足がかりとなる」と、同薬剤師会はプレアボイド活動の継続を決めた。

杉本氏は機会を捉えて薬局に対してプレアボイドの重要性を啓発するとともに、同薬剤師会へその報告を挙げてもらえるよう依頼を続けた。

その結果、ファクスなどで手書きのプレアボイド報告が届くようになった。これを杉本氏らが所定の様式の書類上に改めて転記するなどの整理を行っていた。薬局からの報告は随時受け付けているが、発生時ではなく1年に2回設定された締め日に集中していたため整理作業は大きな負担となっていた。この作業の効率化のため、2016年から電子化し、サーバーに登録する形に移行した。

同薬剤師会では、電子化以前の

2010年からのプレアボイド報告をホームページで公開している(図1)。2011年からは、「(副作用の)未然回避」、「ヒヤリハット」、「重篤化回避」に分類され、参照しやすくなっている。

それぞれの報告は、表計算ソフトで閲覧できるファイルで、誰でも簡単に読める(図2)。「薬剤師だけでなく、医療・介護に関わる多くのみなさんに見てほしいから」と杉本氏はその理由を説明する。

### お薬手帳をツールに 医薬連携の充実が進む

久留米三井薬剤師会のプレアボイド活動で、特筆すべきこととしてお薬手帳を活用した医薬連携がある。

同薬剤師会の薬剤師はプレアボイドをきっかけにお薬手帳をさらに重要視するようになった。そこから発展して、重複処方の疑いや残薬が多いなど緊急がない場合は、主治医宛の連絡事項として記載し、患者さんへ診察時にお薬手帳を見せるように伝える。

一方で血液検査の結果や退院時処方などの情報をお薬手帳に記載する医療機関が現れ始め、薬剤師は患者さんへの薬学的介入がしやすくなった。

お薬手帳を連絡ツールとして活用する動きは、訪問看護師など様々な職種にも広がっている。

\* \* \*

久留米三井薬剤師会はプレアボイドの啓発、優良事例を報告した薬局の表彰など薬局薬剤師のモチベーションを高める取り組みを継続している。同薬剤師会のプレアボイドに関する活動は“手作り”感が残るが、着実に充実の方向に進んでいる。医療経済効果については、過去のデータも含めて検証中だが、近日中に明らかになる予定だ。

薬局薬剤師のプレアボイド活動が認められれば、他職種との信頼関係がさらに強化されて、相互に共有される情報も増えていく。お薬手帳によるコミュニケーションの充実が、このことを証明している。